

基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆 第2版

中村好一(著)

栃木県保健福祉部健康増進課健康長寿推進班主査

池内寛子

一歩踏み出すのを後押ししてくれる指南書

本書には、地域の保健従事者が学会発表や論文執筆に取り組むために必要となる基礎的な知識や技術が書き込まれています。第1章「はじめに」の中で「本書第2版のターゲットは、保健活動を念頭に置いた学会発表や論文発表を目指す保健従事者や医学/保健科学の初心者向けである」といった趣旨の記載があるように、保健科学の進展にかかわるめざすべき方向性や研究と保健事業との関連性がわかりやすく書かれています。地域の保健従事者には必読といえる内容です。

書籍の前半は、研究を行う目的や研究を無駄にしない計画の立て方、研究の実施から結果をまとめるために必要な基礎知識や技術が記載されています。読み進めていくうちに読者自らの保健事業の課題を研究によって模索し解決したくなるような楽しさも伝わってきます。後半は、初めて学会発表や論文執筆を行うときに感じるちょっとした心配事に対する解説が一つひとつ丁寧に記載されています。

最も魅力的な点は、学会発表や論文執筆の作成方法を通して、地域の保健事業にかかわる考え方や課題の抽出方法、解決方法、まとめ方などを学習するための手引きとしても活用できるところです。「計画→実行→評価→改善」のPDCAサイクルに基づく効果的な事業の実施には欠かせない内容であり、その効果として以下のようなものがあります。

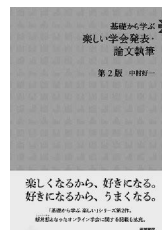
- ・業務に対する視野が広がり、多方面から保健事業を考えることができる
- ・業務の進め方に関して、疑問を解決する糸口を見出せる
- ・科学的根拠に基づく業務の企画や実施を常に考

えるようになるため、業務の見直しの方法がわかる

- ・対象者に対する効果的な技術支援の実践やその根拠をまとめる力が養われる
- ・事業の実施・評価を積み重ねていくスキルが身につくので、次の世代の保健活動の進展につながる
- ・保健活動の目的を理解し、信念をもって業務に取り組むことができる

評者は2012年に栃木県内の精神科病院の管理栄養士と連携して県内の実態調査を実施し、翌年には本書初版を参考にしながら学会発表と論文報告を行いました。さらに2017年には2回目の調査と学会発表を行いました。当初、われわれは「学会発表や抄録作りなんて学者がやることだ」と思っていた素人集団でしたが、本書著者の厳しくも温かい指導により、現在も日々の業務改善を目的にメンバー一人ひとりが自ら学会発表や論文作成に取り組んでいます。

「学会発表や論文発表をやってみたい」「日々の業務に何かしら疑問を感じ、改善をしたい」と考えている方は、ぜひこの書籍を手にとってみてください。皆さんが一歩踏み出すのを後押ししてくれる指南書になるはずです。



●A5/頁240/2021年
定価：本体2,800円＋税
[ISBN978-4-260-04651-0]
医学書院 刊